

# 四半期報告書

(第47期第2四半期)

自 2019年4月1日

至 2019年6月30日

**九九電氣株式会社**

# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

### 第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
3 経営上の重要な契約等	4

### 第3 提出会社の状況

#### 1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	5
(2) 新株予約権等の状況	5
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	5
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	5
(5) 大株主の状況	6
(6) 議決権の状況	7

2 役員の状況	7
---------	---

### 第4 経理の状況

#### 1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
四半期連結損益計算書	11
四半期連結包括利益計算書	12
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13

2 その他	18
-------	----

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2019年8月9日
【四半期会計期間】	第47期第2四半期（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）
【会社名】	カナレ電気株式会社
【英訳名】	Canare Electric Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大野 淳一郎
【本店の所在の場所】	愛知県日進市藤枝町奥廻間1201番地10
【電話番号】	0561-75-3001（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 小淵 敦
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝公園2丁目4番1号
【電話番号】	03-6435-6940
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 小淵 敦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第46期 第2四半期 連結累計期間	第47期 第2四半期 連結累計期間	第46期
会計期間	自 2018年1月1日 至 2018年6月30日	自 2019年1月1日 至 2019年6月30日	自 2018年1月1日 至 2018年12月31日
売上高 (千円)	5,561,851	5,695,636	11,371,590
経常利益 (千円)	729,063	586,511	1,480,109
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益 (千円)	512,123	336,406	1,028,540
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	340,890	248,506	765,115
純資産額 (千円)	12,916,420	13,265,173	13,185,405
総資産額 (千円)	14,610,304	14,934,147	14,962,926
1株当たり四半期（当期）純利益金額 (円)	75.88	49.84	152.39
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	88.4	88.8	88.1
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	370,489	209,920	742,842
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	42,193	△85,168	△116,826
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△168,738	△188,600	△323,978
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高 (千円)	7,274,281	7,233,832	7,322,502

回次	第46期 第2四半期 連結会計期間	第47期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年6月30日	自 2019年4月1日 至 2019年6月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	21.32	16.69

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額は、潜在株式がないため記載しておりません。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間の当社グループを取り巻く経営環境は、日本では緩やかな回復が継続してまいりましたが、第2四半期以降弱い動きとなりました。海外におきましても、米国経済下振れリスクの高まりや中国経済の成長が鈍化し横ばいで推移するなど、総じて経済の拡大テンポは減速しております。

こうしたなか、当社グループは、光製品や電子機器の新製品普及活動、AVコンソール製品などの販促活動を積極的に行うと共に、高品質製品の安定的な供給による顧客満足度の向上や新規製品の開発活動に取り組んでまいりました。

この結果、前期から引き続き国内販売は好調でしたが特にアジア圏での業績が落ち込み、連結売上高は5,695百万円（前年同期比2.4%増）の微増となりました。利益面では海外での輸送コストアップや全体的な一般管理費増の影響に加え、当社において新基幹業務システム導入計画の変更に伴う減損損失の計上などがあり、営業利益571百万円（前年同期比21.2%減）、経常利益586百万円（前年同期比19.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益336百万円（前年同期比34.3%減）となりました。

また、主なセグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ①日本

日本市場は、好調に推移しており、売上高は3,786百万円（前年同期比9.7%増）と増収となりましたが、人件費や倉庫家賃増加の影響により、セグメント利益は445百万円（前年同期比3.2%増）となりました。

#### ②米国

米国市場は販促強化の成果により、売上高は424百万円（前年同期比11.5%増）となりましたが、セグメント利益では米中貿易摩擦による輸入コスト上昇の影響が大きく4百万円（前年同期比81.2%減）となりました。

#### ③韓国

韓国市場は落ち込みが大きく、電設市場などへの積極的な販売活動を行っているものの、売上高は428百万円（前年同期比13.2%減）となりました。セグメント利益におきましても減収に伴い4百万円（前年同期比90.1%減）となりました。

#### ④中国

中国市場は昨年末にかけて回復基調でしたが、当期に入って低調となり、売上高は607百万円（前年同期比22.3%減）となりました。セグメント利益におきましても減収に伴い123百万円（前年同期比24.7%減）となりました。

#### ⑤シンガポール

販促活動のテコ入れをはかっているものの、自国やインドネシア向けが不振となっており、売上高は170百万円（前年同期比14.4%減）となりました。セグメント利益におきましても減収に伴い13百万円（前年同期比47.1%減）となりました。

当第2四半期末における財政状態につきましては、棚卸資産増や投資増加がありましたが、現金及び預金など減少により、資産合計は前連結会計年度末に比して28百万円減の14,934百万円となりました。負債合計につきましては、買掛金や未払法人税等などが減少したことによって、前連結会計年度に比して108百万円減の1,668百万円となりました。純資産合計につきましては、親会社株主に帰属する四半期純利益計上による増加と期末株主配当による減少の結果、利益剰余金が増加し79百万円増の13,265百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、税金等調整前四半期純利益504百万円を計上しましたが、法人税等226百万円や配当金168百万円等の支出に加え、たな卸資産の増加のため前連結会計年度末に比して88百万円減の7,233百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前四半期純利益504百万円の計上に対し、法人税等の支払226百万円等の支出に加え、たな卸資産の増加のため、209百万円の収入超(前第2四半期連結累計期間比160百万円減)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

定期預金の払戻超が125百万円となりましたが、投資有価証券取得211百万円があり、85百万円の支出超(前第2四半期連結累計期間は42百万円の収入超)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

期末配当を主因に188百万円の支出超(前第2四半期連結累計期間比19百万円増)となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は、254百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	23,092,200
計	23,092,200

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年8月9日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	7,028,060	7,028,060	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	7,028,060	7,028,060	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
2019年4月1日～ 2019年6月30日	—	7,028,060	—	1,047,542	—	262,000

## (5) 【大株主の状況】

2019年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
有限会社香流	東京都青梅市新町3丁目30-11	800	11.85
株式会社新高輪	新潟県長岡市浦4775-15	800	11.85
株式会社センリキ	名古屋市名東区極楽2丁目54-2	350	5.19
川本公夫	東京都港区	300	4.44
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-11	211	3.14
加藤宣司	名古屋市名東区	200	2.96
川本重喜	愛知県長久手市	200	2.96
株式会社ノダノ	愛知県長久手市野田農1007	200	2.96
合同会社カワシマ	愛知県長久手市草掛37	200	2.96
株式会社センユキ	名古屋市名東区極楽2丁目54-2	150	2.22
計	—	3,411	50.55

(注) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社が所有する211千株は、信託業務に係るものであります。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2019年6月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 278,500	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 6,747,700	67,477	—
単元未満株式	普通株式 1,860	—	—
発行済株式総数	7,028,060	—	—
総株主の議決権	—	67,477	—

② 【自己株式等】

2019年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
カナレ電気(株)	愛知県日進市藤枝町奥廻間1201番地10	278,500	—	278,500	3.96
計	—	278,500	—	278,500	3.96

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第2四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（2019年1月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,132,427	7,886,909
受取手形及び売掛金	1,516,542	1,468,267
有価証券	201,521	100,645
商品及び製品	1,655,176	1,931,649
仕掛品	151,510	153,984
原材料及び貯蔵品	397,313	370,835
その他	428,832	397,494
貸倒引当金	△7,600	△5,363
流動資産合計	12,475,723	12,304,423
固定資産		
有形固定資産		
土地	772,993	767,315
その他	2,672,730	2,784,285
減価償却累計額	△2,045,632	△2,112,534
有形固定資産合計	1,400,091	1,439,066
無形固定資産	132,441	14,448
投資その他の資産	954,669	1,176,209
固定資産合計	2,487,202	2,629,723
資産合計	14,962,926	14,934,147
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	709,920	660,262
未払法人税等	212,924	175,163
賞与引当金	64,519	82,767
役員賞与引当金	34,860	15,896
その他	641,075	626,859
流動負債合計	1,663,300	1,560,949
固定負債		
製品保証引当金	9,656	18,661
役員退職慰労引当金	62,040	64,470
退職給付に係る負債	9,139	9,339
その他	33,383	15,552
固定負債合計	114,220	108,023
負債合計	1,777,521	1,668,973

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,047,542	1,047,542
資本剰余金	1,175,210	1,175,210
利益剰余金	11,301,736	11,469,404
自己株式	△335,601	△335,601
株主資本合計	13,188,888	13,356,556
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	43,472	52,649
繰延ヘッジ損益	133	—
土地再評価差額金	△371,051	△371,051
為替換算調整勘定	323,962	227,019
その他の包括利益累計額合計	△3,482	△91,383
純資産合計	13,185,405	13,265,173
負債純資産合計	14,962,926	14,934,147

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
売上高	5,561,851	5,695,636
売上原価	3,251,876	3,406,532
売上総利益	2,309,975	2,289,104
販売費及び一般管理費	※1 1,584,998	※1 1,717,852
営業利益	724,977	571,251
営業外収益		
受取利息	8,146	8,133
受取配当金	4,706	5,549
不動産賃貸料	2,657	2,525
投資事業組合運用益	—	1,808
固定資産売却益	—	16
その他	5,748	3,664
営業外収益合計	21,257	21,697
営業外費用		
支払利息	—	861
不動産賃貸原価	1,350	1,423
為替差損	11,733	1,635
投資事業組合運用損	1,830	1,201
固定資産売却損	—	21
固定資産除却損	160	204
その他	2,097	1,090
営業外費用合計	17,172	6,438
経常利益	729,063	586,511
特別損失		
減損損失	—	82,270
特別損失合計	—	82,270
税金等調整前四半期純利益	729,063	504,240
法人税、住民税及び事業税	237,677	189,078
法人税等調整額	△20,737	△21,244
法人税等合計	216,939	167,833
四半期純利益	512,123	336,406
親会社株主に帰属する四半期純利益	512,123	336,406

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	512,123	336,406
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△34,028	9,176
繰延ヘッジ損益	75	△133
為替換算調整勘定	△137,278	△96,943
その他の包括利益合計	△171,232	△87,900
四半期包括利益	340,890	248,506
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	340,890	248,506
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	729,063	504,240
減価償却費	48,303	112,999
減損損失	—	82,270
製品保証引当金の増減額 (△は減少)	11,799	9,004
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	744	543
受取利息及び受取配当金	△12,852	△13,683
固定資産売却損益 (△は益)	—	5
固定資産除却損	160	204
売上債権の増減額 (△は増加)	△139,606	25,979
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△128,279	△284,381
仕入債務の増減額 (△は減少)	△70,769	△34,380
未収消費税等の増減額 (△は増加)	38,380	43,231
未払消費税等の増減額 (△は減少)	7,111	△3,925
その他	35,494	△19,214
小計	519,550	422,893
利息及び配当金の受取額	13,625	13,983
法人税等の支払額	△162,686	△226,095
その他	—	△861
営業活動によるキャッシュ・フロー	370,489	209,920
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△353,043	△304,373
定期預金の払戻による収入	512,993	430,214
有価証券の償還による収入	—	100,000
有形固定資産の取得による支出	△24,565	△98,627
無形固定資産の取得による支出	△321	△2,540
投資有価証券の取得による支出	△100,000	△211,183
その他	7,130	1,341
投資活動によるキャッシュ・フロー	42,193	△85,168
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△168,738	△168,738
リース債務の返済による支出	—	△19,862
財務活動によるキャッシュ・フロー	△168,738	△188,600
現金及び現金同等物に係る換算差額	△42,026	△24,820
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	201,917	△88,669
現金及び現金同等物の期首残高	7,038,297	7,322,502
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	34,066	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 7,274,281	※1 7,233,832

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
給料及び賞与	424,927千円	457,873千円
貸倒引当金繰入額	1,059	840
賞与引当金繰入額	56,599	52,646
役員賞与引当金繰入額	27,728	15,896
製品保証引当金繰入額	214	—
役員退職慰労引当金繰入額	4,312	6,366
退職給付費用	24,029	24,862
減価償却費	18,286	66,625
研究開発費	299,347	254,035

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
現金及び預金勘定	8,154,468千円	7,886,909千円
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	△880,186	△653,076
現金及び現金同等物	7,274,281	7,233,832

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年3月23日 定時株主総会	普通株式	168,738	25.00	2017年12月31日	2018年3月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年7月27日 取締役会	普通株式	155,239	23.00	2018年6月30日	2018年9月10日	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年3月20日 定時株主総会	普通株式	168,738	25.00	2018年12月31日	2019年3月22日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年7月30日 取締役会	普通株式	155,239	23.00	2019年6月30日	2019年9月9日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2018年1月1日至2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	日本	米国	韓国	中国	台湾
売上高					
外部顧客への売上高	3,451,268	380,425	494,004	782,834	62,929
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,229,443	931	—	517,922	—
計	4,680,712	381,357	494,004	1,300,756	62,929
セグメント利益又は損失(△)	431,777	22,651	41,870	164,552	5,372

	報告セグメント		その他(注)	合計
	シンガポール	計		
売上高				
外部顧客への売上高	198,769	5,370,232	191,618	5,561,851
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	1,748,297	—	1,748,297
計	198,769	7,118,530	191,618	7,310,149
セグメント利益又は損失(△)	25,506	691,730	△5,527	686,203

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、インド、欧州及び中東の事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	691,730
「その他」の区分の利益	△5,527
セグメント間取引消去	5,700
棚卸資産の調整額	22,577
その他の調整額	10,496
四半期連結損益計算書の営業利益	724,977

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2019年1月1日 至 2019年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				
	日本	米国	韓国	中国	台湾
売上高					
外部顧客への売上高	3,786,397	424,015	428,721	607,989	54,249
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,254,972	1,659	—	545,608	—
計	5,041,369	425,675	428,721	1,153,598	54,249
セグメント利益又は損失（△）	445,642	4,253	4,128	123,827	2,513

	報告セグメント		その他（注）	合計
	シンガポール	計		
売上高				
外部顧客への売上高	170,113	5,471,486	224,150	5,695,636
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	1,802,240	—	1,802,240
計	170,113	7,273,726	224,150	7,497,877
セグメント利益又は損失（△）	13,494	593,860	△6,061	587,798

（注）「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、インド、欧州及び中東の事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	593,860
「その他」の区分の利益	△6,061
セグメント間取引消去	69
棚卸資産の調整額	△26,807
その他の調整額	10,191
四半期連結損益計算書の営業利益	571,251

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「日本」セグメントにおいてソフトウェアの減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては82,270千円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	75円88銭	49円84銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	512,123	336,406
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(千円)	512,123	336,406
普通株式の期中平均株式数(株)	6,749,546	6,749,546

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

2019年7月30日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (1) 配当金の総額……………155,239千円
- (2) 1株当たりの金額……………23円00銭
- (3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………2019年9月9日

(注) 2019年6月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月8日

カナレ電気株式会社

取締役会 御中

## 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 孫 延生 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 北岡 宏仁 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているカナレ電気株式会社の2019年1月1日から2019年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年1月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、カナレ電気株式会社及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2019年8月9日
【会社名】	カナレ電気株式会社
【英訳名】	Canare Electric Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大野 淳一郎
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	愛知県日進市藤枝町奥廻間1201番地10
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 大野淳一郎は、当社の第47期第2四半期（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。